

「愛知の教育を考える懇談会」最終報告の概要

基 本 認 識

「善悪をわきまえ、他人を思いやる心」と「社会で役立つための意欲・力」を子どもたちが身に付け、社会のために役立つことができるようにすることをこれからの教育の柱とすべき。

子どもたちの教育をめぐる主な環境変化

家 庭	学 校	地 域	企 業 ・ 団 体
核家族化、少子化に伴い、家族の構成人数が減り、兄弟や祖父母との関わりが減少 過剰とも言える教育情報、祖父母が身近にいないことから、子育てに信念が持てない親が増加 子どもの要求を安易に受け入れる傾向が強くなり、子どもが我慢できなくなっている 自由や権利をはき違えた、自己中心的な親によってわがままな子どもが増加	自由や権利をはき違えた、自己中心的な親によってわがままな子どもが増え、学校で規律違反に対する厳しい指導・処置がしにくい状況が生じてきている 授業時間数や学習内容が削減されてくる中で、子どもの基礎的な学力が低下 学校現場では積極的な取組が行われる一方で、意欲や能力が不足する一部の先生が、学校に対する信頼感を損ねている	地域の間関係が希薄化し、近所同士の付き合い、子ども同士が遊ぶ機会、大人と子どもと一緒に活動する機会が減少 企業に勤める人が増え、子どもが親の働く姿に接する機会が減少 高齢社会になり退職後に地域に戻る高齢者が増加するとともに、地域の問題に関わろうとするNPO活動が活発化（地域における新たな担い手の増加）	家庭・地域の教育力が低下してきている中で、社会的に大きな存在である企業・団体が教育に対して役割・責任を果たしていくことの意義が大きくなっている（企業・団体の社会的役割・責任の増大） 少子化に伴う若年労働力の減少や企業間競争の激化の中で、資質・能力の高い人材育成のために企業・団体が教育に協力しようとする動きも生まれつつある

取 組 方 向

「善悪をわきまえ、他人を思いやる心」を身に付けさせる  
～社会生活を営む上で不可欠の心構えを身に付けさせるとともに、いじめ、不登校、非行をなくす～

命の大切さを教える  
「命を大切に教育」研究会を設けて、生命の誕生、生・死の重さ、生物の生態など様々な角度から指導内容や指導方法を検討し、その成果をもとに取組を推進。  
人間関係を築く力を育む  
異なる学年による学校行事や幼・保・小・中の相互訪問などにより、異年齢の子ども同士の交流・活動の機会を拡充。「あいち・出会いと体験の道場（仮称）」（後出）も活用。  
きまりを守る心・態度を育成する  
子どもの成長・発達段階に応じた学校のきまりづくりや遵守の取組のあり方について検討し、提示。  
条例規制により青少年に有害な環境を浄化。  
いじめ、不登校等に対応する  
兆候の早期発見・対応のため、全中学校へのスクールカウンセラー配置を急ぐとともに、小学校での巡回指導を順次実施。いじめ、不登校、児童虐待の当事者である家庭・学校を行政と地域社会が支援する体制の構築を検討。  
親育ちを支援する  
幼稚園や保育所などを活用して、子育てに悩む親同士が交流したり、アドバイスが受けられるような場・機会を拡充。実際に困難を乗り越えた親子の経験談集を作成し、問題克服のヒントとして提供。

教育委員会及び学校現場の活性化  
～地域とともに学校の活力を高める～

教育委員会の機能を強化する  
教育政策の実質的な議論を活発にするよう、教育委員会会議の審議機会を拡充。併せて、教育委員を支える教育委員会事務局の体制を強化。  
開かれた学校づくりを進める  
学校運営についての自己評価や地域住民に意見を求める仕組みとして効果的な取組を、学校現場に紹介、普及。  
教員の資質を高める  
教員のやる気を引き出す教員評価制度を構築。指導力不足教員には厳格に対応。社会経験を重視した採用など、教員採用の改善策を順次実施。

教育新生の実現に向けて

県として果たすべき役割（総合的な観点からの施策立案、条件整備を行うことなど）を明示。また、教育に関わる主体として、家庭、学校、地域とともに、企業、市町村を位置付け、それぞれに期待される役割を明示。

「社会で役立つための意欲・力」を身に付けさせる  
～基礎・基本の学習を徹底するとともに、社会で役立つという心構えをはぐくむ～

小中学校で基礎・基本を確実に身に付ける  
少人数指導を、理解度に差がつかず算数・数学などに重点を置いて推進。  
英語とITの能力を育成する  
21世紀の新しい基礎的な学力としての英語とITの能力育成のため、手法・方策、カリキュラムを研究・工夫。英語教育については、国語教育をより重視すべきなどの意見を踏まえて検討。  
学習意欲と目的意識が持てる高校教育を充実する  
・ 総合学科の設置やコース制導入を推進し、生徒一人ひとりが学習意欲・目的意識を持つことができるような高校教育システムを構築。  
・ 企業、大学と連携して、高校生が専門的、実践的な能力を身に付ける取組を推進。  
職業観・勤労観を育成する  
社会の成り立ちを理解し、職業観・勤労観や人間関係を築く力を育成する機会として、中学生を対象に、1週間程度の職場体験などを行う「あいち・出会いと体験の道場（仮称）」を創設。

愛知の特色や将来方向を踏まえた時代変化に対応する人づくり  
～愛知の未来を創造する人を育てる～

国際化時代に対応する  
世界の多様な文化を肌で感じられるよう、県内の小中学生の愛知万博見学を奨励。一方、増加する外国人労働者の子どものための教育環境を充実。  
モノづくりの精神・文化を次代に継承する  
子どもたちのモノづくり体験やモノづくり名人との交流などを、企業等と連携して実施。  
農業県としての特色を人づくりに生かす  
農林水産業体験や農山漁村での生活体験を通じて、豊かな人間性や郷土意識を育成。  
愛知らしい環境学習を進める  
愛知万博の成果を継承し、「里山学びと交流の森づくり事業」などと連携した環境学習プログラムを開発。